

子どもや妊婦への影響

～受動喫煙の害から子どもたちを守ろう～

子どもや妊婦に深刻な健康被害を与える受動喫煙。特に子どもは、大人に比べて呼吸回数が多く、親との密接な身体接触も多いため、親からの受動喫煙の害をまともに受けます。換気扇の下やベランダでの喫煙、空気清浄器を設置しても受動喫煙は防げません。子どもの健やかな成長のためにも、タバコの煙のないクリーンな環境を整えましょう。



**妊娠中から始まっている
胎児・子どもへの健康被害**

タバコの煙には、喫煙者が直接口から吸い込む主流煙のほかに、火の点いたタバコの先端から立ちのぼる副流煙と、喫煙者の口や鼻から吐き出されると、タバコを吸わない人も自分の意思とは関係なく、副流煙や呼出煙にさらされることがあります。これが「受動喫煙」です。

受動喫煙にさらされると、がんや心筋梗塞、脳卒中、呼吸器疾患など、さまざまな病気のリスクが高まることが知られていますが、子どもが受ける健康被害は、大人以上に深刻です。受動喫煙が及ぼす悪影響は、妊娠中から始まっています。妊婦が受動喫煙にさらされた場合、流産のリスクが約2倍、早産のリスクが約1.5倍高くなります。さらに、受動喫煙は胎児の発育にも悪影響を及ぼし、子宮内発育不全や低出生体重児の割合が20～90%増加、出生体重は20～200g減少するという報告があります。

数字だけを見ると、それほど影響のある体重減少ではないように思われるかもしれませんが、胎児が発育不全などのリスクを抱えていた場合、ほんの少しの出生体重の減少が、新生児死亡や精神発達遅滞、脳性マヒなどの原因になることもあるのです。

子どもへの受動喫煙は、体重当たり有害成分の量が大きくなりますし、発育期の若い細胞の方が有害成分の影響が強く出るため、たいへん危険なのです。



**乳児期の突然死から、
成人後の肺がん発症リスク
まで…**

出生後、乳幼児期においても、受動喫煙は次のような健康被害のリスクを増大させます。

- 乳幼児突然死症候群
(Sudden infant death syndrome :
SIDS)
- 気管支炎、小児ぜんそく、
肺炎などの呼吸器疾患
- 中耳炎
- 虫歯
- 知能低下
- 低身長
- 成人後の肺がん
発症リスクを高める



今年7月には国会で健康増進法が改正され、今後、国として受動喫煙対策が強化されるほか、東京都は6月に東京都受動喫煙防止条例を成立させ、国よりもさらに厳しい対策が実施されることになりました。とりわけ、子どもの受動喫煙を防ぐことに重点が置かれています。

このような社会全体の動きの中、喫煙されている方は、ご自身、ご家族や周囲の人を守るために禁煙を考えてみませんか。